



楽しみながらも真剣です

3月9日、11日、13日の三日間、コミュニティーセンターにおいて「少年野球教室」が行われ、村内各小学校から集まった26人が参加しました。

市浦村体育協会主催によるこの教室は、スポーツを通じ心身の健康を図ることを目的に昭和57年から開催されているもので、指導員による技術面での指導はもちろん、挨拶をはじめとした心の教育も行われ、子どもたちは楽しみながらも真剣に取り組んでいました。

— 生涯学習について語り合う —

第1回 市浦村 生涯学習推進大会

二月十一日、市浦村コミュニティセンターにて市浦村教育委員会主催による「第一回市浦村生涯学習推進大会」が開催され、二百二十人の参加者が集まりました。

なぜ生涯学習は必要なのか

青森県が発行した「青森県生涯学習推進基本計画」の中で生涯学習とは、各人が自発的な意志に基づいて必要に応じ自己に適した手段・手法を選びながら生涯にわたって行うものであると紹介されており、生涯学習が

求められている社会的な背景として次の三点が述べられている。

- 一、所得水準の向上、余暇時間の増大、高度歴化、高齢化などが進行する「成熟社会」において、心豊かで充実した人生を生きたるため、人々の学習やスポーツ、文化活動等に対する意欲が強く、学習活動自体に人生の充実感を求める傾向が強まるなど、多様で高度な学習需要が増大していること。
- 二、科学技術の高度化、情報化、国際化など社会の激しい変化に対応するために、絶えず新しい知識・技術を修得することが必要とされていること。
- 三、我が国の近代化が進む中、学校教育が発展する一方で、学校教育に対する過度の依存に伴う弊害が増大してきたことから、今後は、いつ学んでも、どこで学



▲当日は大勢の参加者がありました

ること。三、我が国の近代化が進む中、学校教育が発展する一方で、学校教育に対する過度の依存に伴う弊害が増大してきたことから、今後は、いつ学んでも、どこで学

演題「くもりガラスを手で拭いて それで明日が見えますか」

講師 市浦村長 高松 隆三



講演をする高松村長

昔も今も時計が刻む速さは同じだが、感じる速度は昔とはくらべものにならないほど早くなっており、昔習った知識や経験では解決できないことも増えている。世の中の流れも地方分権、行財政改革、そして介護保険制度など新しい時代へ向けてどんどん変わっていきつつあるし、現に変わってきている。こうした新しい時代の到来を目前にして皆さんもそれぞれ心の改革をする時に来ていると思う。行政に頼ればなんでもやってくれるという時代ではなくてきている。

特に驚くべきことは最近中学生が先生を殺したり、警察官を襲ったり、常識では考えられないような事件が相次いで居り、世紀末を思わせる状況であり、こうした現象を見

ていると、くもりガラスを拭くくらいでは先が見えてこない。

しかし農業がダメ、漁業がダメ、商業もダメだという悲観論では誰も助けてくれない。そこに逆転の発想がなければこの苦境から抜け出すことはできない。

今年7月に県では文化観光立県を宣言することになっているが、私共もこのイベントに積極的に参加して市浦をアピールしたいと思っている。これをきっかけに「青森や市浦が遠い、寒い」という意識を変えることができれば幸いである。

消費者の意識が変わってきており「昔からこうだから」では通じなくなっている。商売するにも観光するにも価値観の変化に対応するアイデアが必要である。なぜリンゴが木から落ちるか、このなぜという問題をもてば、宝物は足元に沢山ある。くもりガラスも拭きようによっては明日が見えてくる。

メダカはどんなに努力してもクジラにはなれないし、ヘビはどんなに脱皮してもヘビはヘビでしかないが、サナギが脱皮すれば蝶に変身することができる。その蝶に変身するという気迫こそが明日を作っていく基本である。

(講演から一部抜粋)

んでも、その学習の成果が適正に評価される社会を形成する必要があること。

これまでも市浦村では教育委員会を中心にスポーツ活動、文化活動、趣味の活動、レクリエーション活動等が行われてきました。しかし前述の社会的背景に対応するためには村民の生涯学習に対する関心をより高め、村全体の大きな流れとして生涯学習推進をしていくことが必要と言われており、また余暇を有効に活用するための場としても注目されています。そこで村民の生涯学習に対する関心をより高めることを目的に「第一回市浦村生涯学習推進大会」が開催されました。

生涯学習推進への 第一歩

開会に先だって木村教育長より「生涯学習は今日一日で終わるのではなく、継続していくことが大切である。」との挨拶がありました。

生涯学習推進大会は二部構成となっており、午前の部は高松村長による「くもりガラスを手で拭いてそれであしたが見えますか」と題した講演が行われ、厳しい社会の現状から抜け出すには発想の転換が必要である」と

参加者を激励。午後のシンポジウムでは登壇した六名のシンポジストとコーディネーターによって進行内容、各種団体における活動内容と今後の展開が発表され、その後も各種質問や意見交換が活発に行われました。市浦村では今後も生涯学習推進大会を開催する予定で、次の機会にも村内各種団体からの意見を参考に、市浦村における生涯学習を導いていく予定です。

シンポジウムより



コーディネーター
鍋田 元 さん

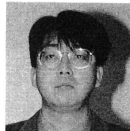
今回は語り合えることが目標ですので、みなさんからいろいろな考えを出してほしい。その考えを各団体や村で対応できるものは対応しながら生涯学習の推進に努めていきたい。



市浦村校長会事務局長
秋田谷 福道 さん

自ら学ぶ力を育てることを目標に教育を実践。また保護者や一般に対する学習機会を提供することによって地域に開かれた学校づくりをめざして活動している。

家庭教育の効果をより高めるために、保育所から中学校、連合PTAなど連携する必要があるのではないかと。そのためにも市浦で行われている各種活動を積極的に住民にPRしていく必要があると思っています。



市浦村商工会青年部長
成田 武司 さん

パソコン教室の開催や、部員研修として開催していた文化講演会をふるさとまつりの中で一般にも開放することにより多くの村民に学習する機会を提供してきた。これからの新しい発想で新しいものを作っていく。



市浦村連合婦人会長
斉藤 恵美子 さん

これまでの活動は趣味の教室を通じた研修によるいきがいくくりや、ボランティア活動が中心でしたが、参加している人が固定化している。なるべく多くの方にも参加していただくためにカルチャーセンターとの連携による事業の拡大を検討し、楽しみながら生きがいづくりをしていきたい。



市浦村連合PTA会長
奈良 義一 さん

教育効果の向上や安心して学習できるように研修を中心とした活動などによる環境の整備や文化講演会など、各種研修への参加者が不足しているので積極的に参加してほしい。そして研修の中で家庭教育の必要性を呼びかけ、子どもと高齢者の交流を進めていきたい。



道の駅十三湖高原駅長
山内 守栄 さん

趣味の教室で制作された作品等を販売することによって各種研修活動のバックアップを行っている。今後もトースムプラザを通じて朝市の開催などみなさんと共同で村外へ市浦をアピールしていきたい。



西北教育事務所社会教育主事
鶴賀 一昭 さん

これまで各団体ごとに行われていた生涯学習活動を総合的にまとめた形で行うために推進本部を設け、教育委員会だけでなく役場各課に生涯教育の担当者配置して取り組んでいる自治体もある。市浦村でも村全体の流れとして生涯学習に取り組んでもらいたい。

NEWSフラッシュ

合格おめでとう

第一〇八回全国商工会珠算検定試験

（第一〇八回全国商工会珠算検定試験が二月十三日午後四時から開催され、笹山雅博くん、澤田幸広くんが見事一級に合格しました。今回の受験者数は四十一名で合格者は次のとおりです。

- ▽一級 笹山雅博、澤田幸広（辻分珠算塾）
- ▽二級 三上佳子、秋田谷絵梨
- ▽三級 小倉広大（浦田塾）
- ▽四級 榎方亮伍、近藤祥平（浦田塾）
- ▽五級 澤田みゆき、吉田亮



▲笹山雅博くん



▲澤田幸広くん

家庭

庭でできるやさしい介護

福祉入門（ふれあい）教室

二月十三日コミュニティセンターにおいて「福祉入門（ふれあい）教室」が開催され、当日は五十五人の参加者が集まりました。

この教室は介護に関心がある方を対象に市浦村社会福祉協議会が主催したもので、昨年末は講義のみの内容となつていましたが、今年からは実技も併せて実施されるようになりました。

この教室は介護に関心がある方を対象に市浦村社会福祉協議会が主催したもので、昨年末は講義のみの内容となつていましたが、今年からは実技も併せて実施されるようになりました。

実技の内容は寝たきりの方に負担がかからない体移動をはじめとした介護方法が紹介され、介護する側、介護される側両方の立場を体験。続いて実際に家庭で介護をしている参加者の実情に合わせた介護法も紹介され、参加者は講師の説明



▲負担のかからない方法が紹介されました

- ▽七級 棚引良大、小山内理佳子（辻分珠算塾）
- ▽八級 石岡麻由子（辻分珠算塾）
- ▽九級 田中未久（辻分珠算塾）

若山知裕（浦田塾）
 越谷めぐみ（浦田塾）
 新岡歩美、近藤佑人、中井亮、濱田芽里、長尾南（浦田塾）

を熱心を受けていました。市浦村社会福祉協議会では、福祉に携わる人材育成を目的とした介護教室を開催していく予定で、みなさんの積極的な参加を呼びかけています。

ユ

ニークなゲームに歓声

第五回しらふレクリエーション・ザ・ギネス



▶五人六脚はチームワークで



▲風船ダーツは集中力!

- このほど、海洋センター体育館において「第五回しらふレクリエーション・ザ・ギネス」が開催されました。これは軽スポーツを楽しむながら記録に挑戦し、スポーツに親しむ習慣を身につけることを目的としており、子ども会とその育成者を対象に百三十二名が参加しました。
- 競技種目は台車に横ばいになってスラロームで進む「人間4WDリレー」など、全五種目のユニークな競技に挑戦。慣れない競技に参加者は悪戦苦闘しながらもゲームに熱中。競技終了後、参加者からは「初めて見るゲームばかりでとても楽しかった。来年も参加したい。」との感想が述べられています。
- ▽人間4WDリレー
 - ▽小学生の部 かえで子ども会
 - ▽育成者の部 かえで子ども会
 - ▽五人六脚
 - ▽小学生の部 しじみ子ども会
 - ▽育成者の部 しじみ子ども会
 - ▽風船ダーツ
 - ▽育成者の部 かえで子ども会
 - ▽小学生の部 しじみ子ども会
 - ▽風船ダーツ
 - ▽育成者の部 しじみ子ども会
 - ▽小学生の部 しじみ子ども会
 - ▽風船ダーツ
 - ▽育成者の部 しじみ子ども会
 - ▽小学生の部 しじみ子ども会
 - ▽風船ダーツ
 - ▽育成者の部 しじみ子ども会

第2回 十三湖白鳥まつりスナッフ

第二回十三湖白鳥まつりが二月十四日十三湖マリーナを会場に行われ、村内各保育所の子どもたちや親子連れ約三百人が参加しました。



▲白鳥へ餌付けをする参加者



▲白鳥鳴き声コンテストでは白鳥に扮した子どもがチャレンジ。白鳥そっくりの演技からカラスの鳴き声まで飛び出し、会場は笑い声に包まれていました。



▲正解に一喜一憂した白鳥の渡り鳥クイズ。



▲チャンチャン焼き、豚汁、おしるこはお母さんたちの協力で



▲商工会青年部製作による雪のすべり台に子ども達は大喜び。

は三部構成で進行され、手

それぞれ個人や地区団体で練習した踊り、唄、寸劇

とあひつをし、出演者全員がオーブニングセレモニーとして、上ノ国音頭などを披露しました。

は全地区で生涯学習を推進しており、全道にも名前が知られているこの芸能発表に参加しているお母さん

たちはその第一報者です」とあひつをし、出演者全員がオーブニングセレモニーとして、上ノ国音頭などを披露しました。

は全地区で生涯学習を推進しており、全道にも名前が知られているこの芸能発表に参加しているお母さん

たちはその第一報者です」とあひつをし、出演者全員がオーブニングセレモニーとして、上ノ国音頭などを披露しました。

は全地区で生涯学習を推進しており、全道にも名前が知られているこの芸能発表に参加しているお母さん

たちはその第一報者です」とあひつをし、出演者全員がオーブニングセレモニーとして、上ノ国音頭などを披露しました。

は全地区で生涯学習を推進しており、全道にも名前が知られているこの芸能発表に参加しているお母さん

たちはその第一報者です」とあひつをし、出演者全員がオーブニングセレモニーとして、上ノ国音頭などを披露しました。

は全地区で生涯学習を推進しており、全道にも名前が知られているこの芸能発表に参加しているお母さん

たちはその第一報者です」とあひつをし、出演者全員がオーブニングセレモニーとして、上ノ国音頭などを披露しました。

は全地区で生涯学習を推進しており、全道にも名前が知られているこの芸能発表に参加しているお母さん

たちはその第一報者です」とあひつをし、出演者全員がオーブニングセレモニーとして、上ノ国音頭などを披露しました。

は全地区で生涯学習を推進しており、全道にも名前が知られているこの芸能発表に参加しているお母さん



第18回 母さんの手作り芸能発表会

息をつく間もなく、一つひとつの演芸に対し、暖かく大きな拍手を送っていました。

おひねりを捨てる人が扮装をしたり、司会者の杉田京子さんが幕の下りるつど衣装替えをするなど各所に工夫が見られ、会場は

眼差しが向けられていました。また、来賓によるカラオケや、おひねりを捨てる人が扮装をしたり、司会者の杉田京子さんが幕の下りるつど衣装替えをするなど各所に工夫が見られ、会場は

眼差しが向けられていました。また、来賓によるカラオケや、おひねりを捨てる人が扮装をしたり、司会者の杉田京子さんが幕の下りるつど衣装替えをするなど各所に工夫が見られ、会場は

眼差しが向けられていました。また、来賓によるカラオケや、おひねりを捨てる人が扮装をしたり、司会者の杉田京子さんが幕の下りるつど衣装替えをするなど各所に工夫が見られ、会場は

眼差しが向けられていました。また、来賓によるカラオケや、おひねりを捨てる人が扮装をしたり、司会者の杉田京子さんが幕の下りるつど衣装替えをするなど各所に工夫が見られ、会場は

眼差しが向けられていました。また、来賓によるカラオケや、おひねりを捨てる人が扮装をしたり、司会者の杉田京子さんが幕の下りるつど衣装替えをするなど各所に工夫が見られ、会場は



かみのくに
情報ランド

友好町村だより ⑳

母さんの手作り芸能発表会開催

会場は笑いと拍手が絶えません！

二月十五日ジョイよぐらで、

上ノ国町婦人団体連絡協議会

(富江トミ子会長) 主催の第十八

八回母さんの手作り芸能発表会

が行われました。

はじめに富江会長が、「十地

区二百九人の各家庭の婦人が、

毎晩家族の方々の協力を得ながら

いろいろなけんめいに練習して

きました。未熟な芸ではあり

ますが、最後までよろしくお願

いします。」と、続いて来賓の

福原町長が、「上ノ国町で

は全地区で生涯学習を推進

しており、全道にも名前が

知られているこの芸能発表

に参加しているお母さん

たちはその第一報者です」と

あひつをし、出演者全員が

オーブニングセレモニーとして、

上ノ国音頭などを披露した。

それぞれ個人や地区団体

で練習した踊り、唄、寸劇

は三部構成で進行され、手

少年少女友情の船

体験航海記

この研修は、少年少女が親元を離れて、一つの船の中で十日間を一緒に生活することにより協調性を高め自立心が育つことを目指し、同時に海外の同世代の友人と交流を深めながら、将来の国際社会人の養成を目指して実施されたものです。体験航海は一月四日から一月十三日までの十日間に渡って行われました。市浦村から参加した小学六年生の体験航海記をご紹介します。

○市浦村からの参加者

- 奈良卓弥くん 太田小学校六年
- 上野誠純くん 相内小学校六年
- 葵 一世くん 相内小学校六年
- 本田雅人くん 相内小学校六年
- 鎌田朋花さん 相内小学校六年
- 三浦瑞絵さん 相内小学校六年
- 松橋 要くん 十三小学校六年



▲参加者が乗船した「おりえんとびいなす」

思い出になった十日間

本田 雅人

「ジリジリジリ!!」

目覚め時が激しく鳴った。今日は、まことにまていた「ATV少年少女友情の船」の第一日目だ。昨夜のうちに持ち物を整理しておいたのだが、さすがに家を出るとなると、本当に全部入っているのかなあ」と心配になってきた。役場に行き家族と別れる時である。ほくは、母に手をふった。お金を出してきれた母のためにもおもいっきり

楽しんでみようと思った。パスの中では、七時間ぐらいゆれてきたが友達と話したりたいくらいはしなかった。仙台につきまわつたらが乗る船「おりえんとびいなす」がみえてきた。船に乗り、部屋に入った。そこで新しい友達と出会った。そしてその夜は、なかなかおむねれなかった。第二日目、最低最悪の日だった。今日は、朝から船が揺れていてほくは船よしがしまった。すぐにおおるだろうと思っていたがなかなかおならず。結局この日は何もできなかった。そして第三日目、この日は船よりも楽しく面白いウォークラリーもあるから(よい一日になりそうだな)と思った。

HRが終了、朝食を食べ、英会話をした。聞いたこともない英会話話をならって、(ゲームの人たちと話せるかなあ)と心配だった。次は班別ワークだ。ほくは、とうろつ作りの方へ回った。初めて作ったとうろつだったができばえはよかった。

昼食を食べ、洋上慰霊祭を行った。硫黄島では、第二次世界大戦中に多くの日本人が死んだ所だと知った。ほくは(やすらかにねむってください)と思った。

その次は、前半のメインイベントでもある班別ウォークラリーである。クイズもできてビンゴもできる(二C鳥のゲーム)がある。ほくの班C12は、順調に進んで行ったのだが、ビンゴカードをあまり集められなかったのが残念だった。一位がC組からでてうれしかった。C12も四位という記録が残せたのでよかった。このように時は進んでいった。

そして、いよいよ最終第十日目。長いようで短かった十日間だった。いろんなことがあった。新しくできた友達と遊んだ。船よしいという敵を負かして思い出が大漁になった。そんなことがあった十日間。そんな友達と別れるのは悲しかった。ほくは、ここで出会った友達を忘れまいと思った。本当に楽しい十日間だった。

楽しかった友情の船

葵 一世

ほくは、最初の日、船に着く前は、ほくと同じ部屋の人とは、どんな人なのかと思ひ、ドキドキしていました。でも三人の人とは、とってもいい人でした。一日目は、もう夜おそかったので、ご飯を食べ、ねむりました。

二日目は、洋上クラブ活動が



▲海に流したピンは誰へ届く？

あつて、はくは、持棋のクラブでした。勝ったり負けたりしたけど、楽しかったです。

三日目は、初めて船によって。四日目は、グアム入国に備えて、英会話などをやりました。

その日は、班別ウォークラリーがあつて、ぼくたちA組は、残念ながら、六位でした。

そして、とうとう五日目、朝起きて窓をのぞいてみたら、もうグアムのけしきでした。入国手続をして、船から出でみたら、すごくあつて、四十度近くもありました。ぼくはこの日を楽しみにしていたけど、残念なこと、グアムに風速百八キロメートルの風がふいて、学校の人々がほとんど来れなくなつてしま

いました。でも、アカデ・ジョンソン中学校に、十人くらい学生が来てくれたので、うれしかったです。

そして、ドッチボールをしてから、昼食を食べました。日本と同じようで、おいしかったです。そのあと短い時間ではあつたが、お別れをしました。それから、島内見学をしました。一番心に残したのは、昔、二人の男と女が、百三十五メートルのがけから、身を投げをしたといわれる恋人みさきです。上からそつこのぞいてみたら、目まいがしそうなほど高く、ぼくは、よく飛ぶ勇氣があるなと思ひました。

六日目は、ココス島での海水浴で、海がきれいだったけど、

ナマコがいっぱいいました。とちう雨がふつたけど、楽しかったです。

七日目は、サイパンに着いて、マイクローイチで泳ぎました。はつきり言うとう、泳ぎよ、サイパンのほうか海がきれいでした。

そして八日目、洋上オリンピックがあつて、一生懸命やった結果、A組は、一位でした。とつてもうれしかったです。その日の夜は、夜店祭があつて、いいものが当たつて、うれしかったです。

九日目は、フェスティバルがあつて、A組は「エッサササ」という出しものをやつた。演じている時間が短かつたので、五位までに入れないと思つていたら、それでも三位でした。

十日目で船での生活が終わると思つていたが、波の高さが十メートルもあつて、船がぜんぜん進んでないところから、もう一日船に泊することにしました。ぼくは、ちよつとうれしかったです。その次の日は、朝四時に起きて、仙台へ後戻りした。ぼくは、このATV少年少女友情の船に参加して、本当によかったです。友達もいっぱいつくりました。これは、一生の思い出になりました。

「少年少女友情の船」

松橋 要

一月四日から、一月十四日まで十日間、ぼく達は、少年少女友情の船とつう、船の旅に行つて来ました。一月四日の朝に車に乗り、午後の五時に、やつと船台に着きました。

船に乗って、一番始めに、自分の部屋に行きました。始めは、みんな何も言わずに、だまつていただけ、だんだん慣れてきました。そして、ねる頃には、もう友達になつていました。

一月五日、二日目は、避難訓練がありました。避難訓練では、船の非常口や、どの救助いかだに、乗るかなどを、覚えまして、

一月六日、三日目は、班別ウォークラリーがありました。班別ウォークラリーでは、歌を歌つたり、クイズをやつたりして楽しかったです。

一月七日、四日目は、交流会の準備をしました。交流会の準備では、みんな真面目にやっていました。

一月八日、五日目は、グアムに上陸して、学校訪問をしました。グアムの学校は、一階だけでした。グアムの人達は、とても親切でした。

一月九日、六日目は、ココス

島の海水浴がありました。ココス島の海水浴では、気持ち良くとても楽しかったです。

一月十日、七日目は、サイパンでのショッピングがありました。

一月十一日、八日目は洋上オリンピックがありました。洋上オリンピックでは、一番最初にカモメの水平線というのをやりました。カモメの水平線とは、四つんばいになつて、ライフジャケットを着て、走つて行つて、ライフジャケットを、次の人にもわたして、次の人もライフジャケットを着て、どんどん、リリースしていくゲームです。H組は、四位でしたがおもしろかったです。

最後に綱引きをしました。綱引きは、二回とも、H組が勝ちました。結果は、一、二、三位は、取れなかったけど、特別賞というこでし。

一月十二日、フェスティバル

1と2が、行われました。今日が最後の夜だと思ふと、少し、悲しくなりました。

一月十三日、すごい事が、おこりました。波が、高くて、船が、激しくゆれるので、道路を変えたため、一日おくられて、青森に、着く事になりました。

一月十四日、四時に起きて、帰る事になっていました。四時半からバスに乗って岸に着きました。とても楽しかったです。

最高の思い出

上野 誠純

一月四日(土)今日はお出発です。約七時間という長い時間をかけて仙台に着きました。初めて、おりえんといびいなすを見た時、とても大きくて、おどろきました。

カリキュラム四日目。今日は、昨日にひき続き、英会話がありました。学校訪問や、交流会で話すための。英語を話して、買物の練習です。みんな、必死にテキストを見て、先生に答えていました。ほくもそうでした。

そして二時から、交流会の準備がはじまりました。準備といつても、歌や、笛などの練習です。歌は、「赤とんぼ」や「さくら」などの日本の代表的な歌をグア

ムの人達に聞かせることになりました。それと、グアムの人になかたを見せることになり、ほくは、はやしの係でした。むずかしくて、あまりできませんでした。でもがんばりました。

昼食は、デックランチでした。デックランチとは、広い所でバイキング方式のように食べるということです。やさそば、からあげ、たこ焼、フランクフルト、ジュース、アイス……など、たくさん

の食べ物があったて、どれを食べようかと迷うほどでした。青空の下で食べるのせいか、いつもより食欲が進みました。みんな、紙流しをやりました。みんな、届くといびいなあと願っています。

午後から、今日の日玉。クラブ活動がありました。ほくは、ドックボートクラブでした。組は、G組とI組がいつしよでした。ほくは、あまりボートをつかんだり、投げたりしなかったけど楽しかったです。結果は、全敗で最下位でした。

クラブが終わった後、とうとう外貨が約二万五千円です。日本円はほくは、(これは、大事に使わないとなあ)と思います。それから、入浴、シャワー、洗濯、夕食、TV放送などが

あって、カリキュラム四日目が終わりました。今日は、デックランチやクラブ活動などがあって本当に楽しい一日でした。

ほくは、この少年少女友情の船に乗って、たくさんの思い出ができ、たくさんの友達もできました。この船に乗って本当に良かったです。

楽しかった十日間

三浦 瑞絵

家を出てから六日がたち、カリキュラム六日目をむかえました。私は、これまで、船酔いもせず、新しい友達といっしょに楽しい毎日過ごしていました。

そして、この日はみんなが、一番楽しみにしていた、ココス島海水浴の日です。私たちの乗った、おりえんといびいなすから、バスで、船着き場まで移動し、船で、ココス島まで移動しました。だんだん、海の色が青

かんだり、投げたりしなかったけど楽しかったです。結果は、全敗で最下位でした。クラブが終わった後、とうとう外貨が約二万五千円です。日本円はほくは、(これは、大事に使わないとなあ)と思います。それから、入浴、シャワー、洗濯、夕食、TV放送などが

あって、カリキュラム四日目が終わりました。今日は、デックランチやクラブ活動などがあって本当に楽しい一日でした。ほくは、この少年少女友情の船に乗って、たくさんの思い出ができ、たくさんの友達もできました。この船に乗って本当に良かったです。



▲甲板でオリエンテーションを受ける参加者

みんなさげながら、にげまわっていました。私も最初は、(気持ち悪いなあ)と思っていたけれど、だんだん、慣れてきました。海水浴を終えると、雨が降ってきました。船でバスへもどり、おりえんといびいなすへ帰りました。

初めは、英語が全然わからなかったけど、テキストを見ながら

言ってみると、グアムの人達は、きちんと返事をかえてくれました。とてもうれしかったです。ねぶた祭、竹馬なども、グアムの人達は、めずらしく見えていました。とても楽しかったです。

毎日、楽しいことがいっぱい十日間でした。最終日は、まだ家に帰りたいという気持ちでした。この船でできた、たくさんの友達と、いろいろな経験は、私は一生忘れません。



▲左から松橋 要くん、本田雅人くん、上野誠純くん、三浦瑞絵さん、鎌田朋花さん、榮 一世くん、奈良卓弥くん

思い出いっぱい十日間

鎌田 朋花

私がこの船に乗ろうとしたきっかけは、両親から強くすすめられて乗りました。

「一回乗っておくといいい。絶対一生の思い出になる」とテレビでそのCMが入ることに言っていました。

そして、友達と相談して行くはめになったのです。

私はJ組で部屋は二階だった

ので、あんまりゆれなくて、いいなあ」と感じました。部屋の人も他の班の人とも友達なれて、初めて来てよかったと思いいました。

七日目は、サイパン入港です。

サイパンはその日の午後12時に出港なので、最後の陸上活動だから、少ない時間だけど思い出をたくさん作ろう」と思いました。

マイクロビーチの海は、海の底の白い砂がどこまでもすきと

おって見えるほどきれいでした。また、緑にかこまれ青い空がとてもきれいな所でした。それに、日光があまり出ずに思ったほど暑くなくてよかったのです。

途中でスクールがあったけれどすぐに止んでほめました。貝や鳥も今までに見ることがないような白っぽい色でびっくりしました。

また、やしの実の汁を飲ませてもらいました。汁はとろろめい水っぽくて、私が好きな味ではありませんでした。みんなこんなのを飲んでいるのかなあ」ととても不思議になりました。

ショッピングの時は、島の店員はみんな日本語が話せてびっくりしました。

島内見学の時日本人専用のホテルや住宅もあつたり、やしの実を料理や調味料としても使ったことなどから聞きました(そんなこの島には日本人が多いのか)と私は思いました。人口は一万七千人でその大部分がチヤエロ人が占めていることもわかり、とても勉強になりました。

ATV少年少女友情的の船に乗って、友達や思い出がたくさんできてよかったです。また船よりの時などお世話してもらった

お医者さんや看護婦さん、ATVのみなさん、そしてすてきなくれたお父さんお母さんにはとても感謝しています。

友情の船でいい体験をしたと思います。

友情の船を体験して

奈良 卓弥

最初は、友達もなく不安がっていました。二日目、三日目と日をますごとに友達がたくさんできて楽しくなってきました。とくにいんしように残っていることは、九日目のフェスティバルの日です。この日は、朝からフェスティバルでF組が出す出し物の準備や練習をしました。出し物は、スピードのホワイトラブという曲で出し物をするのにしました。ピニールテープでいろいろな色でかつらを作り演じました。次は歌とふりつけの練習です。みんなでいんな工夫をしてなんとかなりました。他のクラスの事も気になりましたが自信をもつてがんばることにしました。

昼ごはんを食べたから、ついフェスティバルの時間をわかせました。ぼくたちが出し物をするのは

最後のほうでした。ぼくたちがやる前に見てきたなかでもマカレナでダンスをおどったクラスがありました。その中でもとくにうまかったのがまずん中でおどっていた女の子の人です。うまいなあと思っているうちに、ぼくたちの番になりました。ぼくはみんなの前でおどるのは、はずかしかったけれどぼくたちのクラスに芳樹と言う人がいてその人のダンスがおもしろかったので、けっこういい点数がつかまりました。そして各クラスの出し物がわかりました。

そして夜ごはんになりました。夜のごはんは、バイキングでした。ぼくたちの班長は、バイキングになると食べきれないほどもってきます。その食べきれないほどの食べ物を食べてから二回目のフェスティバルが始まりました。二回目のフェスティバルは、みんなマカレナをおどったりしました。フェスティバルが終わってから、みんなで写真を撮ったりしました。その日は船の旅の中で一番楽しい日でした。ぼくは、十日間この船の旅はとても思い出になりました。思い出いっぱいだったので父と母にはとても感謝しています。

後醍醐天皇

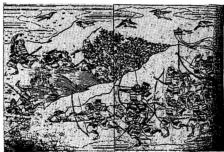
▶ 79 ◀

後二年の取手遠征 (14)

戦闘再開の両勢

年も明けて寛治五年(一〇九二)になりました。正史では寛治元年のことになります。「市浦村史」第二巻を参照して下さい。

さて、源氏の軍が秀衡軍に負けて国府に引き上げたことが伝わると、近隣の武士たちが日に日に金沢の柵に雲霧のように味方に馳せ参じてきました。大いに意気が上がってきました。一方、国府では鬼丸・蜘蛛切の霊剣



▲雁行の乱れ伏兵あることを知る図 (『前太平記』所収)

によって義家の病気が全快したので、再度の金沢攻めに陣立てをしました。特に奥州の百姓が立ち上がっていました。源家の敗北はいつも軍糧の不足にあってたからでした。そして、進んで貢米の増産に協力したのです。戦闘を一日も早く終了させなければならぬという百姓の自覚が芽生えてきたものでしょう。幸いにもこの年は豊作でした。義家は九月月上旬数万騎を引率して国府を出発します。

武衛・家衡の作戦

これを聞いた清原軍は一族郎従を集めて評議を開きます。意見はまちまちでしたが、家衡の軍略は、「昨年、国府を攻めた時われわれが敗北したしたのは、源義忠の伏兵があつたためであるが、今またわれわれは敵の攻め域外を城中に立て籠もって一人も兵を城外へ出さなかつた。この度は味方も伏兵をして大手の軍の最中にならうとする時、敵の後ろから縦横無尽に攻め立てるならば敵陣たちまち乱れるであらう。

その時四方の木戸から騎馬の逞しい兵を出し、十方の柵から矢石を雨のように発すれば何時も立たずに勝負が決するであろう。敵はいつものように考えずて伏兵などには思いもかけないから勝負を一挙に得るとは明らかである。この作戦はどうであらうか」との意見に、武衛はじめ一同両手を挙げて賛同します。

そこで、屈強の郎従三十余人に諸方の賊徒三百余人を交えて、此処の穀かげ森のかけ、彼処の岩根畔の下に隠れ、弓を抱き甲を杖にして静まり返つて源軍を待つていました。

雁行の乱れ

九月十五日、義家將軍の陣が金沢に到着します。翌日の辰の刻(※午前七時から九時までの間)から戦闘を開始しようとする軍を分けてそれぞれの大將を定め、義家自ら戦いの作戦を指示しながら進軍します。

ちやうど季節が秋の末方というので、澄み切つた大空を南に渡る数多の雁が列を作つて連なつて飛んでいました。馬上の義家が何の心もなくこれを仰いでいましたが、行手の雁の列が急にその列を乱して十方に飛び散りました。この様子を見て跳かに眺めた義家は、驚き控し馬の手綱を引き締めて進軍の停止を命じました。そして言うには、「兵野に伏す時には雁行が乱れるとい

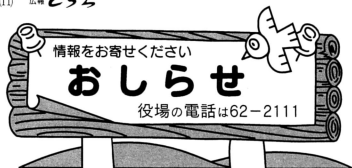
う。今あれなる雲の上を渡る一行の斜雁が急に列を乱した。まづこの野に敵の伏兵がいる。四方を取巻いて捜し捕らえよ」と下知しました。そこで、早雄の若者どもが我らもと馳せ向かつて捜し求めると隠れ居た家衡の郎従らは叶わぬと思つたのか我れ先にと逃げ出しました。三十余騎が討ち取られ、傷ついた者は命からがら逃げ帰つたといふことです。

このことによつて義家はますます天下の名声を博し、軍神と崇められるようになったといふ。

真の武将

その後、義家がこの経緯を他人に語つていうには、「武を心に懸ける者は先ず文道を学びなさい。我れ今伏兵を知つて敵の謀に陥らないのは武の徳ではない。文徳のお陰であつた。真の武士は文武両道に達した者をいうのである」と教え、その経緯を次のように語つている。

前九年の役の後、義家は宇治殿(関白藤原頼通)に面謁して得々と軍の様子を自慢して語つた。その時同席していた大江匡房(貴族、大宰権帥、学者)が、「義家は武の道を知らない人だ」とつぶやいたのを、随従の宗任が聞いて立腹して義家に告げたが、義家は匡房について学問を学び雁行の乱れに伏兵があることを知つていたのでした。



市浦村の人口と世帯数 平成10.2.2現在

大字名	前月人口	人口	世帯数
相内	1,289	1,291	415
桂川	67	67	22
太田	281	281	88
脇元	535	535	197
磯松	301	302	108
十	793	798	248
計	3,266	3,274	1,078

定年は60歳を下回ることができなくなります

事業主の皆様には、高齢者の雇用の推進に向けての努力が、高齢者等の雇用の安定等に関する法律により義務づけられています。

●60歳定年の義務

(高齢者雇用安定法第4条)

平成10年4月1日からは定年制については60歳以上とすることが義務になります。なお、60歳を下回る定年は無効となり、定年を理由として労働者を退職させることができなくなります。

また、65歳までの継続雇用についてもよろしく願います。

▶お問い合わせ先

五所川原公共職業安定所

▶電話番号

34-3171

小さな掛け金・大きな補償
スポーツ安全保険

スポーツ安全保険は、障害保険と賠償責任保険および共済見舞金を組み合わせた総合保障制度で、グループの皆様や指導者の方々が安心して活動できるようにとの願いを込めて開発しました。スポーツ活動だけでなく、コーラス、料理教室などの文化活動も対象となります。

万一の事故に備えてぜひこの保険へのご加入をお願い申しあげます。

▶受付期間

平成10年3月1日より

▶保険期間

平成10年4月1日

～平成10年3月31日

▶掛金

中学生以下の団体 …… 450円

大人の団体 …… 1,400円

▶補償金

入院 …… 1日につき4,000円

通院 …… 1日につき1,500円

▶お問い合わせ先

教育委員会生涯学習係

▶電話番号

62-3751

危険物取扱者試験及び消防設備士試験の実施日程について

青森県知事から委任された平成10年度危険物取扱者試験及び消防設備士試験の実施日程が決定いたしましたので、お知らせいたします。

試験別	試験日	受験者別	受験地	種別	受付期間
危険物(前期)	6/14(日)	一般	青森市弘前市	全種全類	4/22 5/6
	6/28(日)	高校生	青森市弘前市	乙種丙種	
危険物(後期)	11/8(日)	一般	青森市弘前市	全種全類	9/21 9/30
	11/15(日)	高校生	青森市弘前市	乙種丙種	
設備士	8/30(日)	一般 高校生	青森市	全種全類	7/21 7/31

善意に感謝します

葛西チヨエ様



▲奈良会長(左)に目録を手渡す葛西チヨエさん(右)

この度、葛西チヨエさん(脇元地区)より「福祉に役立ててほしい」と香典返し(故 葛西善六さん)の一部として、市浦村社会福祉協議会に30万円を寄付されました。市浦村社会福祉協議会では葛西さんの善意に感謝し、福祉基金として積み立てをすることとして

ありがとうございました。

県内の交通事故概況

		青森県交通対策協議会	
	1月	累計	死者のうち
発生	682件(616)	682件(616)	高 齢 者 の 死 者 0(1)
死者	0人(6)	0人(6)	飲 酒 運 転 に よ る 死 者 0(1)
傷者	823人(771)	823人(771)	シ ー ト ベ ル ト 着 用 義 務 者 0(1)
			(着 け な け れ ば な ら ぬ 人)
			非 着 用 者 0(0)
			(着 け て い な かつ た 人)
			着 け て い れ ば 助 け っ た と 思 わ れ る 人 0(0)

()内は前年。累計は1月から。

▶お問い合わせ先

(財)消防試験研究センター

▶電話番号

0177-22-1902

健康への道

No.115

第二十八回 共同保健・福祉計画会議を終えて

去る十一月九日(火)市浦村コミュニティセンターにおいて、「健康文化と快適な暮らしのまちづくり・市浦村における包括ケアシステムづくりを考える」とし、「第二十八回 共同保健・福祉計画会議」が開催されました。この会議は住民自らが健康に関する対策を打ち出していくことを目的に開催されているものです。

今回は、参加者が七十七名で、会議は村長のあいさつ、健康づくり事業表彰と続き、全体の話し合いになりました。話し合いの中ではテーマに沿って話題提供があり、そのあと、市浦村における包括ケアシステムづくりについて話し合われました。グループに別れての話し合いでしたが、活発な意見があり、主催者側として、参考となるとてもよい意見がありました。今回は、その会議の様子について、お知らせしたいと思っております。

そもそも「包括ケア」とは何でしょうか。目まぐるしく変わるこの言葉を目にしない、耳にしない方もいるのではないのでしょうか。

「包括ケア」とは、ものすごく広い意味があるのですが、簡単に私流の言葉で説明するとしたら「赤やんから大人まで、健康な人も、病気や障害をもっている人も、みんなが健やかに生活するために必要な支援」ではないかと思っています。そして、その支援の体制をくんでいくのが、診療所・在宅介護支援センター・高齢者生活福祉センター・役場になるのです。

では、なぜ「今」なのでしょうか。今までも、村内の各関係機関が、全くつながっていないなかったわけではありません。しかし、これからの介護保険の導入、そして村民の皆さんへの質の高い支援をしていくためには、より一層つながりを強くする必要があります。そ

こで、一本にまとまった方がよいということから、今回のこの機会に皆さんに知ってもらい、様々な意見を出してもらいたいと考えたのです。



▲活発に意見交換が行われました

介します。
▼グループ討議から
○これからは、行政頼らずに住民としてこなさなければならない、しなげなければならない、考えていかねばならない。
◎住民みんなが意見を言わない、と進歩しない、改善もない、そうすることによって包括ケアシステムが早期にできると思う。

ですが、本当にいろいろな意見など、とても参考になりました。まず一人一人が健やかに毎日を過ごせることが、一人一人の幸で、それが家族、地域の人に広がるのではないのでしょうか。総合健診が四月十三日(明)から始まります。一人一人の健やかな毎日を考え、保健師は常日頃「うるさく」健診を受けましょう！」と言っているのです。(保健婦 戸沼)



▼お誕生

三和聖那(相内) 大純
小寺美利(相内) 雅巳
工藤祐志(十三) 英仁
佐藤唯(相内) 優一

▼ご結婚

梶浦司志(十) 三三
倉内まり子(青) 森
小山内良治(五所川原)
三和典子(相内)
長内輝彦(木造)
小山内みちる(十三)

小嶋 功 (東京)
秋元 優香子 (十三)

▼おくやみ

梶浦キヨ(十三) 69歳
三和 藤次郎(相内) 95歳
秋田谷いき(相内) 78歳
澤田イト(相内) 84歳
木津谷喜枝太郎(相内) 81歳
宮本ソヨ(相内) 93歳

広報しらら二月号を誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。

三ページ

●在宅サービスの施行日は平成十一年度から、施設サービスは平成十二年度を目途とします。
●在宅サービス及び施設サービスは、平成十二年四月一日から実施されます。